

◆過去に開催した企画展、ロビー展の紹介

2012～2023 年度に開催した企画展、ロビー展をバナーやあいさつ文とともにご紹介します。

●令和 5 年度（2023 年度）企画展「土器文様の“ココ”に注目」



会期：令和 5 年（2023 年）9 月 30 日（土曜日）
～11 月 26 日（日曜日）

会場：茅野市尖石縄文考古館 特別展示室

展示資料：茅野市内縄文遺跡 出土遺物

縄文時代という時代名称は、土器の表面に文様として施された「縄文」に由来します。今回の企画展では、考古学（考古学の専門家）が土器のどの部分に注目してどのような情報を引き出しているのかを示し、同時に土器文様の意味についてのさまざまな仮説についても紹介します。

●令和 5 年度（2023 年度）ロビー展「永明中学校校庭遺跡速報展 弥生時代後期の墓制」



会期：令和 5 年（2023 年）8 月 1 日（火曜日）
～9 月 3 日（日曜日）

会場：茅野市尖石縄文考古館 ロビー

展示資料：永明中学校校庭遺跡 出土遺物

令和 4、5 年に実施した永明中学校校庭遺跡の発掘調査速報展です。

●令和4年度（2022年度）企画展「特別史跡 尖石石器時代遺蹟の今」

尖石遺跡 特別史跡指定70周年記念 企画展

「特別史跡 尖石石器時代遺蹟の今」

会期：令和4年（2022年）9月23日（金・祝）～11月23日（水・祝）
（休館日：9月26日、10月3・11・17・24・31日、11月7・14・21日）

会場：茅野市尖石縄文考古館特別展示室

観覧料：一般500円、高校生300円、小中学生200円
（20名以上団体割引あり）



会期：令和4年（2022年）9月23日（金曜日・祝日）～11月23日（水曜日・祝日）

会場：茅野市尖石縄文考古館特別展示室

展示資料：尖石遺跡出土遺物、文書資料

●関連イベント

特別史跡指定70周年記念シンポジウム

「特別史跡 尖石石器時代遺蹟 その価値を語る」

日時：令和4年（2022年）10月9日（日）午後2時～

会場：茅野市尖石縄文考古館ガイダンスルーム

出演：斉藤 慶史（文化庁文化財第二課）

勅使河原 彰（文化財保存全国協議会常任委員・第2回尖石縄文文化賞受賞者）

守矢 昌文（茅野市尖石縄文考古館特別館長）

※会場は定員40名（要事前申し込み）、オンラインライブ配信もします。



茅野市尖石縄文考古館
〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
電話 0266-76-2270
MAIL togarishi.m@city.chino.lg.jp
website https://www.city.chino.lg.jp/site/togarishi



●ごあいさつ

当館は、国特別史跡の尖石遺跡に隣接しています。尖石遺跡は正式には「尖石石器時代遺跡」と言いますが、昭和17年に史跡に指定され、その10年後の昭和27年に特別史跡に指定されました。

「特別史跡」に耳なじみがない、という方も多いことだろうと思います。耳なじみがない「特別史跡」ですが、日本の歴史や文化を代表するものが厳選されたものだけが指定を受けており、数で言うと全国に63か所しかありません。国宝が令和3年時点で1131件あるのに比べるといかに厳選されているか、分かっていただけることと思います。令和4年＝2022年は、この尖石遺跡が特別史跡に指定されて70年を迎える年でもあります。そして茅野市教育委員会では、この尖石遺跡の調査の歴史をまとめた「総括報告書」も刊行したところです。この展覧会では、この尖石遺跡の調査の歴史と国史跡への指定や特別史跡指定の歴史を振り返り、その価値を再認識するものです。

●令和4年度（2022年度）速報展「永明中学校校庭遺跡 弥生時代・平安時代集落の発掘」



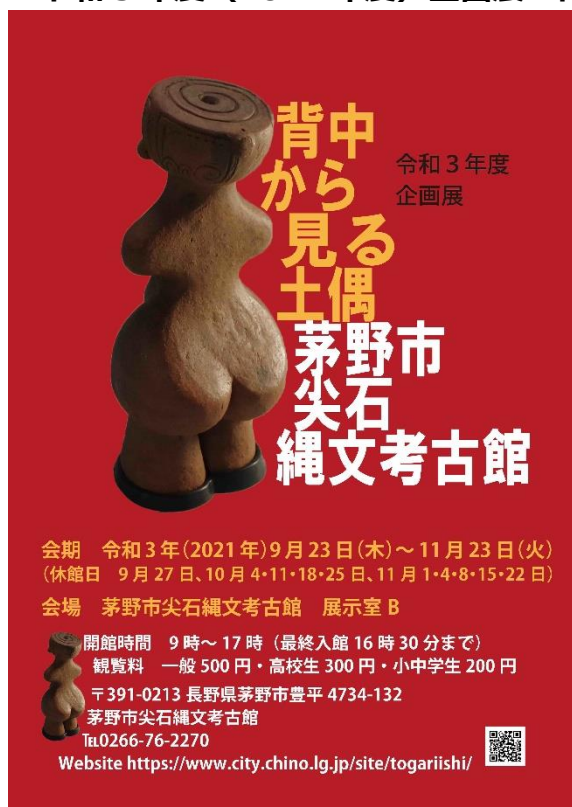
会期：令和4年（2022年）4月23日（土曜日）
～7月31日（日曜日）

会場：特別展示室

展示資料：永明中学校校庭遺跡 出土遺物

永明小中学校建替え工事に先立ち、令和3年度に実施した永明中学校校庭遺跡の発掘調査では、弥生時代と平安時代の集落跡が確認されました。とくに弥生時代の遺跡の発掘調査としては、茅野市内では過去最大規模のものであり、縄文時代以降の茅野市域に生活した人々の痕跡を追求するうえで重要な成果となりました。本企画展は、「縄文」と現代の私たちを繋ぐ「縄文以降」の弥生時代、平安時代の人々のくらしをテーマに展示をおこなうことで、市民に郷土の文化財について広く知ってもらおうべく、調査成果を発表します。

●令和3年度（2021年度）企画展「背中から見る土偶」



会期：令和3年（2021年）9月23日（木曜日）
～11月23日（火曜日・祝日）

会場：展示室 B

展示資料：茅野市内出土の土偶 約 50 点

●ごあいさつ

国宝「土偶」（縄文のビーナス）が初めてパリで展示されたとき、背中から見た「縄文のビーナス」に驚き、そしてハート形を逆さまにしたようなおしりのかたちに愛着を持って図録に背中から見た画像を掲載したという話があります。

普段私たちは土偶を展示するときに顔のあるほうを正面に向けて展示しています。しかし、土偶によっては背中側からみると、おしりの造形にもかなりの意識を向けていることがわかるものがあります。

この企画展示では、これまで当館ではほとんど見せてこなかった土偶の背中を見ていただきます。お楽しみください。

●平成 31 年度（2019 年度）企画展「速報！辻屋遺跡」

会期：令和元年（2019 年）7 / 13（土）～10 / 14（月）
（休館日：8 / 19・26、9 / 2・9・17・24・30、10 / 7）
会場：茅野市尖石縄文考古館特別展示室
（観覧料：大人 500 円、高校生 300 円、小中学生 200 円）
茅野市尖石縄文考古館
〒391-0213 長野県茅野市菅平 4724-132
☎ 0266-76-2270 ✉ toganishi.m@city.chino.lg.jp
website <https://www.city.chino.lg.jp/site/toganishi/>



令和元年度 茅野市尖石縄文考古館企画展：「速報！辻屋遺跡」

会期：令和元年（2019 年）7 月 13 日（土曜日）
～10 月 14 日（月曜日・祝日）

会場：特別展示室

展示資料：人体装飾土器、抽象文土器、軽石製品、
ミニチュア土器ほか



ごあいさつ「速報！辻屋遺跡」開催にあたって

辻屋遺跡（湖東）は、国宝「土偶」（仮面の女神）が出土した中ッ原遺跡から約 400m のところに位置しますが、これまで実態不明の遺跡でした。宅地造成が計画されたことに伴い、平成 29 年（2017 年）4 月に発掘調査をおこない、複数の住居址や土器等の遺物が見つかっています。

辻屋遺跡 から出土した土器は、造形的なインパクトが強く、平成 30 年度（2018 年度）に長野県宝に指定を受けた「信州の特色ある縄文土器」に引けを取らない資料となっています。すでに、フリーペーパー「縄文 ZINE」でも一部紹介されています。

この企画展には、この辻屋遺跡出土土器をメインで展示して、多くの市民に茅野市の縄文文化を知ってもらう内容で開催しました。

●平成 30 年度（2018 年度）企画展「長野県宝指定 縄文土器展」



会期：平成 30 年（2018 年）10 月 6 日（土曜日）
～11 月 25 日（日曜日）、その後期間延長して
12 月 28 日（金曜日）まで開催

会場：特別展示室ほか

展示資料：長野県宝「信州の特色ある縄文土器」（総数
158 点）のうち、茅野市内の各遺跡から出
土した 47 点

ごあいさつ「長野県宝指定 縄文土器展」開催にあたって

長野県の中で、中南信地域は縄文時代中期の優れた土器が出土している地域として知られています。今回この中で特に文様や造形の優れた 158 点が長野県宝として、9 月 27 日に指定されました。

尖石縄文考古館にも優れた縄文時代中期の土器が収蔵・展示され、その中から、指定された全体のほぼ三分の一にあたる 47 点が県宝となりました。

県宝指定された縄文時代中期の土器は、市内の様々な縄文時代の遺跡から出土したもので、この地に豊かな縄文文化が花開いたことを示しています。

顔面装飾、土偶装飾、蛇体装飾、動物装飾、絵画的な装飾など豊かな造形美をご覧ください、優れた縄文人の手わざとデザイン感覚をご堪能ください。

●平成 30 年度（2018 年度）企画展「あさばち 縄文人のうつわの作り分け」

会期：平成 30 年（2018 年）7 月 14 日（土曜日）
～9 月 9 日（日曜日）

会場：特別展示室

展示資料：平成 29 年に調査した頭殿沢上遺跡出土の浅鉢形土器
茅野市内の各遺跡から出土した浅鉢形土器



会期 平成 30 年（2018 年）7 月 14 日（土）～9 月 9 日（日）
【8 月 20 日（月）、8 月 27 日（月）、9 月 3 日（月）は休館日】

会場 茅野市尖石縄文考古館特別展示室

茅野市尖石縄文考古館 〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
TEL 0266-76-2270 website http://www.city.chino.lg.jp/togariishi_m/

●ごあいさつ●

縄文時代の一番の特徴は、土器の発明だと言えます。「縄文時代」という名前も、この縄文土器からとられています。

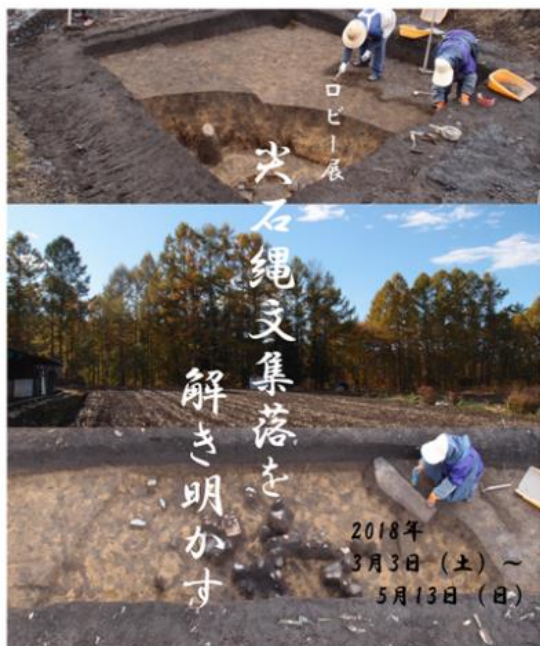
この縄文土器は、それまで「生で食べる」「焼く」という調理方法に、「煮る」という新しい調理方法を追加しました。また、近年の研究では、「煮る」ことを通じて魚類から「油脂を抽出する」ということもしていたことがわかってきました。

そのような土器を見ると、多くはその「煮炊き」に使用したもので、「深鉢形土器」と呼んでいます。しかし、すべてがそうではなく、ランプに使ったのではないかといい土器＝「吊手土器／釣手土器」、蓋とセットで使われたと考えられる「有孔鋳付土器（ゆうこうつばつきどき）」、急須のような形の「注口土器」など、様々な用途を想起させるさまざまな形があります。

今回はそのなかでも「浅鉢形土器」を取り上げました。当館ではあまり特集してこなかった「浅鉢形土器」をじっくりご覧いただきたいと思います。



●ロビー展「尖石縄文集落を解き明かす 平成 29 年度尖石遺跡範囲確認調査速報展」



場所 尖石縄文考古館ロビー
※ロビー展のみ観覧の方は無料でご覧いただけます。

問い合わせ：茅野市尖石縄文考古館TEL:0266-76-2270

ポスターその 1



ポスターその 2

会期：平成 30 年（2018 年）3 月 3 日（土曜日）
～5 月 13 日（日曜日）

会場：ロビー無料エリア

展示資料：平成 29 年度（2017 年度）に実施した
国特別史跡尖石遺跡の範囲確認調査で
出土した資料

ごあいさつ

茅野市教育委員会尖石縄文考古館は、平成 29 年(2017 年)11 月 1 日から 12 月 15 日まで
尖石遺跡の西側で発掘調査をおこない、新たに 2 か所の竪穴住居を址を発見しました。

今回のロビー展では、尖石遺跡の最新の発掘成果をご覧ください。



ポスターその 3

●平成 29 年度(2017 年度)企画展「ちっちゃい土器の奥深い世界」

「縄文人はどうやって持ったのか？」と思う
一人じゃ持てないような
大きい土器がある。

一方、手のひらに、
いくつも乗せられそうな
かわいらしい土器もある。

そんなちっちゃい土器を
集めてみました。

平成 29 年度
茅野市尖石縄文考古館 企画展

ちっちゃい土器の 奥深い世界

会期：平成 29 年 4 月 29 日（土）
～ 6 月 25 日（日）〔月曜休館（5 月 1 日は開館）〕

会場：尖石縄文考古館特別展示室
ご覧になるには観覧料が必要です。

●たとえば●
同じような文様がつけられている…
けど、大きさがまったく異なる土器
左：長峯遺跡、高さ 7cm くらい
右：下ノ原遺跡、高さ 58cm くらい



会期：平成 29 年（2017 年）4 月 29 日（日曜日）
～6 月 25 日（日曜日）

会場：特別展示室

展示資料：茅野市内の各遺跡から出土したミニチュア
土器、相対的に小形の土器、ミニチュア土器
のモデルとなったと思われる土器、ミニチ
ュア土器と同じ文様が施された土器など

ごあいさつ

茅野市が位置する八ヶ岳山麓では、国宝「土偶」（縄文のビーナス）をはじめ、世界的にもまれな豪壮な
立体装飾をもつ土器造形がよく示すように、豊かな縄文文化が育まれました。

それら土器をみると、職人技と感じるほどの手をかけたものもあれば、シンプルなものもあります。真似
をしたのか、似ている土器もあります。そして、大きさを見ても大小さまざまなものがあります。

この企画展では、それら土器のうち、普段あまり取り上げていない小さい土器をご紹介します。さまざま
な特徴をもつ「ちっちゃい土器」、そこから想定できる意外と奥の深い縄文世界を楽しんでいただけた
ら、と思います。

たとえば、「同じような模様の、大小さまざまな大きさの土器」、「精巧に作られた「ちっちゃい土
器」」、「あまり精巧ではない「ちっちゃい土器」とそのモデルになった土器」、「下手な土器」など、
バラエティに富む「ちっちゃい土器」はおもちゃ、儀礼用の道具、子どもが作った土器と、さまざまな可
能性が考えられます。それらを見ていると、縄文時代の親と子、技術伝達が見えてきます。



（左）モデルになった普通の土器と並べると、こんなに大き
さが違うものもあります。（右）奥の土器には、縦のひびが
それ以上広がらないための「補修孔（ほしゅうこう）」とい
う 2 つの孔があります。「ちっちゃい土器」は割れてもいな
いのになぜか 2 つの孔があります。「補修孔」をまねた？

●平成 29 年度（2017 年度）ロビー展

「ハケ岳 JOMON デザイン展 中学生が切り取った縄文土器の文様」



会期：平成 29 年（2017 年）11 月 23 日（木曜日）
～平成 30 年（2018 年）1 月 28 日（日曜日）

会場：ロビー無料エリア

展示資料：北部中学校が縄文科で取り組んだ、縄文土器の文様をモデル、モチーフにしたデザイン画



●ごあいさつ◆

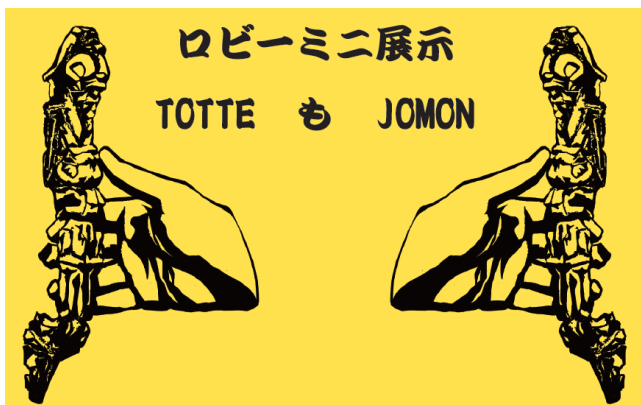


平成26年、「縄文時代の土偶の代表的遺品」との評価を受け、「仮面の女神」の愛称で親しまれてきた土偶が国宝に指定されました。

同年、茅野市の小中学校では「縄文科」の取り組みがスタートしました。以来4年目になりますが、そのなかで、縄文土器の文様を観察、スケッチして、商品化を念頭に置いてデザインを作成する取り組みをした中学校もあります。

このロビー展ではそれら作品をご紹介します。次代の鋭意あふれるデザインをご覧ください。

●平成 28 年度（2016 年度）ロビーミニ展示「TOTTE も JOMON」



会期：平成 28 年（2016 年）9 月 10 日（土曜日）
～11 月 3 日（木曜日）

会場：ロビー無料エリア

展示資料：茅野市内の各遺跡から出土した把手（とつて）状の装飾のある土器 10 点

「TOTTE も JOMON」 ごあいさつ

縄文土器を見ると、今私が使っている器ものからは思いもつかないような造形がされているものが目に付きます。八ヶ岳山麓～関東地方にかけての土器では「わっか」のような装飾が施されたものが目立ちます。「ぶら下げた」「わっかのところで持った」と思える土器です。

しかし、尖石遺跡出土の右の土器を見ると、「わっか」はひとつしかありません。これ、「ぶら下げる」とか「持つ」という役に立つのでしょうか。



このような、一見、「ぶら下げる」役割を果たしそうな「わっか」のついた土器は多い。ただ、ほとんどは装飾であつただろうと思われます。例えば、「わっか」に擦れたような痕跡がないからです。



このロビーミニ展示では、それら以上にもっとつかむことができそうな取っ手のついた土器を集めてみました。どのように使われたのか、取っ手が取っ手の役割を果たしたのか。想像力をたくましくしながらご覧いただきたいと思います。

このロビー展示は、平成 28 年度（2016 年度）の博物館実習として実施しました。

●平成 28 年度（2016 年度）ロビーミニ展示「山を駆ける縄文人」



「山の日」記念 ロビーミニ展示

山を駆ける縄文人



会期：平成 28 年（2016 年）8 月 6 日（土曜日）
～8 月 31 日（水曜日）

会場：ロビー無料エリア

展示資料：栃窪岩陰遺跡、御座岩岩陰遺跡から出土した資料（柏原区遺跡保存会所蔵、当館寄託）

ごあいさつ

ここ尖石縄文考古館は、八ヶ岳のすそ野の標高 1070 メートルの地に建てられた博物館です。八ヶ岳のすそ野には多数の縄文時代遺跡が見つかっています。日本で縄文時代の遺跡がもっとも多かった年代は、今から 5000 年前のことで、八ヶ岳山麓の遺跡の多くはその年代のものです。いわば、この山のすそ野が当時の文化的な中心地だったわけです。尖石遺跡もその一つで、多くの竪穴住居が営まれた、日常生活の拠点となる遺跡でした。

また、広大な八ヶ岳のすそ野に広がるほかの縄文時代遺跡、特に尖石遺跡よりも高いところの遺跡を見ると、縄文時代の人々がどのように山を利用していたのかがわかってきます。

今年、新たに国民の祝日となった「山の日」を記念して、そんな縄文人の山の利用を山の遺跡から紹介したいと思います。

本展示は信州ミュージアム・ネットワーク事業「信州とあそぼ!」との関連事業です。

●平成 26 年度（2014 年度）ロビー展「小学生たちが紹介する縄文展」



会期：平成 27 年（2015 年）2 月 3 日（火曜日）～
3 月 1 日（日曜日）

会場：ロビー無料エリア

ごあいさつ

昨夏、「仮面の女神」が国宝に指定されました。全国でも土偶の国宝は五つしかありませんが、そのうち二つがこの茅野市から出土しています。

縄文時代に残された土偶や土器の造形技術は、狩猟採集段階においては、世界的に見てたぐいまれなものだと言えます。この展示では、その技術の頂点にある 2 体の国宝土偶について勉強した小学 4 年生が、「こんなところに注目して見てほしい」と、展示室のパネルだけでは伝わらない特徴を紹介をしたリーフレットと、土器や土偶の模様をじっくり観察し、その意味も考えた小学 6 年生が、縄文時代のイメージを表現したレリーフを展示いたしました。

縄文時代、土偶、どちらも聞いたことのある言葉だと思いますが、小学生が縄文や土偶について勉強して感じたことを存分に表現したレリーフとリーフレットをご覧ください。



宮川小学校 4 年生が作成したリーフレット



湖東小学校 6 年生が制作したレリーフ



宮川小学校 4 年生 2 部制作リーフレットの紹介文

宮川小学校 4 年生 2 部のみなさんが制作しました。

まだ歴史の勉強を始めていない学年ですが、「縄文のビーナス」と「仮面の女神」について、事前学習と考古館での実物見学をして、自分たちが学んだことをリーフレットに記しました。

紹介している内容は、それぞれで異なりますが、いずれも、展示パネルでは紹介しきれない内容を盛り込んでいる力作です。

ぜひ手にとってご覧いただき、「なるほど、そうなのか！」と思ったら、そのリーフレットを手に、「縄文のビーナス」と「仮面の女神」を観覧していただきたいと思います。

（この紹介文は、考古館スタッフが作成したものです。）

湖東小学校 6 年生 2 部制作レリーのあいさつ文

本日は「6 年 2 組縄文アートプロジェクト My 縄文レリーフ展」をご覧頂き、まことにありがとうございます。

私達は、湖東小学校 6 年 2 組で、「縄文アートプロジェクト」として縄文時代の土器や土偶のデザイン・もようをキーワードに縄文のことを学習してきました。

土器や土偶に描かれている模様や形の意味を考えて、考えた意味などを自分達なりの思いとともに形に残したいと思いレリーフに表わすことにしました。

それぞれのレリーフにこめられた意味や形、色を心からお楽しみください。

湖東小学校 6 年 2 組

🎨 ごあいさつ 🎨

国宝「土偶」（仮面の女神）が国宝に指定された理由の一つに、「土偶造形の頂点を表す」ということがあります。その大きさはもちろん、均整のとれたプロポーション、繊細に施された模様、磨き上げられた表面など、どこを見ても突出した「作品」であることが感じられます。それは、辰野町新町泉水遺跡と、山梨県韮崎市後田遺跡から出土したほぼ同時期の、そして一般的な土偶造形の水準に照らせば「よくできている」仮面土偶と見比べることで、よりいっそう際立つことがわかんと思います。



しんまちせんすい
辰野町新町泉水遺跡出土の仮面土偶

高さ 20.1cm



うしろだ
韮崎市後田遺跡出土の仮面土偶

高さ 21.5cm

「仮面の女神」の近くのお墓から出土した土器を見ると、仮面の女神同様に、丁寧に磨き上げられ繊細な模様が間違えることなく施された土器があります。これらの土器はとてもうすく作られており、なかには現代のうつわと比較しても、同じくらいにうすく作られたものがあります。

「縄文土器は厚くて壊れやすい」・・・そのようなことばを耳にしたことのある方も多いと思います。

しかし、ここに展示する土器は、そのようなものではありません。仮面の女神に発揮された工芸的な技術が駆使された土器を存分にご覧いただきたいと思います。



中ッ原遺跡から出土した精製土器（浅鉢形土器）
【国宝「土偶」（仮面の女神） 附 土器】
※常設展示室 B にて展示しています。

会期：平成 26 年（2014 年）12 月 13 日（土曜日）～平成 27 年（2015 年）1 月 31 日（土曜日）

会場：ロビー無料エリア

●平成 26 年度（2014 年度）企画展「日本国宝展 土偶グッズ展覧会」



会期：平成 26 年（2014 年）11 月 15 日（土曜日）～
12 月 7 日（日曜日）

会場：ロビー無料エリア

ごあいさつ

10 月 15 日から、東京国立博物館で『日本国宝展 祈り、信じる力』が開催されています。これに合わせて、さまざまな土偶関連のグッズも制作されました。おごそかにして神格を帯びていたであろう土偶ですが、なかにはかわいらしさを覚えずにはいられないものもあります。

そんな縄文時代のマスコットの存在の土偶をさまざまに活用したグッズをご紹介します。



●平成 25 年度（2013 年度）国宝答申記念企画展「仮面の女神と国宝土偶」



会期：平成 26 年（2014 年）3 月 19 日（水曜日）～
5 月 6 日（火曜日）

会場：特別展示室、常設展示室 B

ごあいさつ

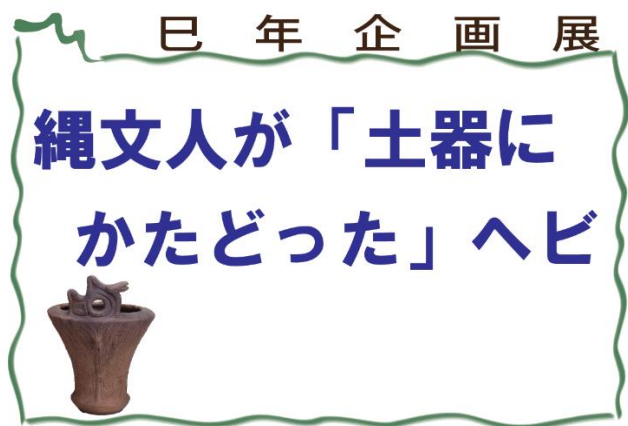
平成 26 年 3 月 18 日、中ツ原遺跡出土の重要文化財「土偶」（「仮面の女神」）が国宝の答申を受けました。平成 12 年 8 月 23 日に発見されて以来、平成 16 年には長野県宝、平成 18 年には重要文化財に指定を受け、平成 21 年には大英博物館の「The Power of Dogu」に「縄文のビーナス」とともに出品されました。しかもその図録の表紙を飾るなど、国内のみならず国外でも、その造形に大きな感嘆と称賛を集めてきました。

このたびの国宝の答申を受け、記念の展覧会を開催します。当館が所蔵している国宝土偶のレプリカ、「仮面の女神」と同時期の土偶など、お楽しみいただきたいと存じます。



展示風景

●平成 24 年度（2012 年度）巳年企画展「縄文人が土器にかたどったへび」



会期：平成 25 年（2013 年）1 月 12 日（土曜日）～
2 月 16 日（日曜日）

会場：ロビー無料エリア

ごあいさつ

本年の干支は巳です。巳、すなわちへびは『古事記』『日本書紀』に登場するだけでなく、縄文時代の土器にも表現されています。この尖石遺跡をもっとも代表する、昭和 8 年出土の土器にもうごめくへびを連想させる造形があります。およそ 5000 年前の土器ですが、5000 年を経てもなおへびと思える造形を施したということは、縄文時代の人々がへびに対して特別な感情をもっていたのだと思います。

この企画展では、へびと思われる造形をもつ土器をご紹介します。縄文人のへびに対する思いを感じていただけたら、と思うしだいです。